

【招待講演】 音声言語の研究と今後の展開

中村 哲 (奈良先端科学技術大学院大学)

【概要】 音声言語の研究は話し言葉を対象にしている。人対人、人対機械の音声翻訳や対話は話し言葉を通して行われている。話し言葉は、意図を即時に伝達するための手段で人間にとって、発話の生成や理解を即時に行う必要があり、記録を目的とし読み書きに多くの時間を使うことができる書き言葉と異なっている。即時性を達成するために、人間は、文脈の利用、発話文の単純化、複数のモダリティの利用を行っている。

一方で、これまで行われてきた音声翻訳、音声対話などの研究は、書き言葉に対して構築された処理系の前後に音声処理を加えただけのものが多かった。本発表では、話し言葉によるコミュニケーションの自動化や支援を目指し、著者のグループが進めている、音声の認識と合成を一つの枠組みで構成する Machine Speech Chain、自動音声通訳へ向けた、同時音声通訳、強調・感情などのパラ言語情報を伝える音声通訳、音声画像翻訳などの研究について紹介する。